興炭労 貝島にも合理化の嵐

大巾賃下げ・組合活動抑圧

新安保体制下の合理化はいよいよひどくなつている。炭鉱では昨年の大がかりな企業整備にひきつづき、今年もつづけられており、炭労の政策変更の闘いがいよいよ急がれてきた。貝島、興炭労では合理化に対抗して二十三日、十八日から炭労指令にもとずき二十四時間ストの実力行使に突入する。

十八日24スト（興炭労）

貝島、興炭労両労組に出された合理化提案の内容は、昨年いらい三井、古河、雄別などが実施したと同様に、他社との不均衡を宣伝しながら、多年にわたる職場闘争でかちとつた実質賃金を一挙にはくだつしようとするものである。

炭労では政策変更闘争の一環として統一闘争の構えで対決しているが、一月十一日賃金、労働条件切下げの指標で、興炭労一月十八日貝島一月二十三日にそれぞれ二十四時間ストの指令を発した。

興炭労では二十六日の団交で会社は合理化の提案を出してきた。

会社の合理化計画は、現在の標準作業量の職場ごと月別交渉をこんご執行部との直接交渉で年間一回の交渉にし、作業量の二〇%強化を中心に、休憩時間の分割、出炭増強のための直接夫（除く仕繰夫）および直接夫の作業に直接関係する作業をしている間接夫の三十分残業制、休務手当の廃止や組合業務の方法条件、月極め手当の支給条件、能率賞与や函増し手当の改定など職場規律に関するものまで網羅している。

会社が出した合理化計画は、たんなる労働強化ではなく職場交渉（闘争）を指定して組合活動を抑圧するとともに、実質賃金を引下げ生産増強しようという二石二鳥をねらつた悪どいものである。

会社、一方的に協定破棄

これに対して組合ではただちに闘争委員会をひらき

(1)白紙撤回を前提として闘いをすすめる。

(2)一月三日山元闘争委員会をひらいて中闘指令にもとずき具体的方針をたてる。さい当り教宣体制と居住区組織体制を強化し、生活資金対策などの内部体制の強化をはかる。

を決定した。

不当な提案をした会社は、二十七日（提案の翌日）早くも各坑と支部間（宇部、西神の山、本山）でとりきめている労働条件についての協定破棄を会社は示してきた。

三池闘争でわれわれが経験したように資本は一部の協定、一切の慣行を暴力的に無視するのは彼らの常とう手段である。

宇部では炭婦協も合理化反対闘争にいち早く立上り生活対策なども真剣に検討している。

今年に入り一月十二日闘争委員会をひらき、炭労指令の一月十八日二十四時間スト決行を満場一致で確認、十八日午前九時半から宇部市民館前で総決起大会をひらくことになつた。

五千円の賃下

貝島23日にスト突入

期末手当の支払いで離脱した貝島労組のたたかいは、第一波二十四時間ストと十二月二十四日からの無期限スト突入で一応解決はしたが、これはあくまで合理化をねらう会社のPRをかねた攻撃でありいずれ相当な内容をもつた合理化提案が予想されていた。

そして期末の解決のあと、なお二日おいた二十七日に会社は正式に合理化の提案を行なつてきた。

その内容が従来に見ないほど多数にわたるものであるが、その骨子は三鉱連の合理化を土台にしたもので、中心は月産一二万トン以上を目標にこれにもとずく人員計画賃金関係については増産賞与の廃止、割増率を二五%に切下げるとともに、標準作業量を二三%引上げ、労務費だけで約三千数百万円を削減（一人当り五千円の賃下げ）をはかり、その他福利厚生費など合計六千五百万円の節減をするというものである。

組合はただちに翌二十八日組合大会をひらき、今までの経過報告を行ない炭労の基本方針にもとずき長期柔軟な闘争体制の構えを固めた。

今年にはいり十五日に臨時総会をひらき、炭労が指令した二十二日の二十四時間ストの実力行使を確認、合理化反対闘争とは別個に退職金の基礎賃金闘争の第一波として十八日時間外拒否、十九日一時間五十分の時限スト、二十日二十四時間ストなど一連の実力行使を決定した。

大巾に減つた給料を手にして……（三川鉱で）

地域で助け合い

減賃に負けるもんか

労働諸条件の切下げによつて大幅な賃下げとなつたが、その減賃になつて初めての給料を十五日に手にした。覚悟はしていたものの、大幅に減賃された給料袋を手にとれば、また新たな怒りと憎しみがわき上つてくる。

闘争中は写真班員として活躍していたMさんは、写真愛好家として闘争以前も仕事をおわり家に帰れば、すぐに暗室にもぐりこみ、好きな写真焼付けにわれを忘れていたが、いまでは坑内でクタクタになるまで仕事させられるので、好きな写真も焼けないとぼやいていた。

「戦時中と同じだ」と語つていた仲間もいる。労働強化に追いやつて、あげくのお返しが減賃である。今くこれでは浮ばれない。しかし泣きごとを並べていても何の役にも立たないのは十分わかつている。会社はこの精神的な動揺をねらつて組織切崩しに目を光らせている。

この苦しいときをのりこえるのはみんなが団結を固めて、こんど不当な抵抗をつづけたたかいぬく以外にはないが、それとともに地域にあつて、お互いがいままで以上に助け合いあらゆる創意を働かせて、少しでも苦しい生活をおぎなう工夫をこらさなければならないだろう。

ある地域では、海苔を日曜に採取に行き、その金を地域で貯めたり物品を購入して、生活のたしにしたり、離職者への豆炭の友愛配給などなどあらゆる工夫がこらされている。

こういう動きが、地域でいま真剣に取上げられてきた。

差別排除で闘争

闘いすすめる 山陽電軌労組

三池労組の差別排除を中心とする、たたかいは、いよいよ新らしい段階に入つてきたが、同じく現在会社のあくどい差別に抵抗し、正月クビ切り状を返上して本格的なたたかいに突入とともに、各組合との交流もはげしくなつた。

組合で計画する交流はいうにおよばず、各地域分会では自主的に交流計画を立て、つぎつぎと交流しあつた。

緑ガ丘地連協では年末に杵島労組の行動隊を迎え交流を深めたが、こんどはこちらからもと、主婦もまじえて六十五名が第一陣として出発した。

また、十一日には宇部興産労組の主婦会から十二名が来山、二、三名づつに分かれて、地域へ入り夜遅くまで懇談会をもち意見を交換し合い、闘いの激励を行なつた。

オルグ往来もいよいよはげしくなり、全国の各組合からオルグたちがつぎつぎと来山してきた。

すでにこの月までに延べ一万数千名が三池に足跡をのこしていた。

反安保もり上る

このころ田川労組では希望退職が完了し山元の配転団交がつづけられており、山野労組では年末にガス爆発がおこり死亡七名、重軽傷二十四名という大変災が発生、ちようどこのころには坑内の保安調査団を編成、調査団が十三項目の要求をまとめて保安団交をつづけていた。

一方、安保改定阻止のたたかいも三池のたたかいと同じカーブでもりあがり、十六日に岸全権の渡米十九日のワシントンでの調印という重大な時期を迎えて全日本の労働組合を中心とする民主団体、文化人、学生とその層がいよいよひろがり、国内に安保粉砕の気運が急激にもり上がつてきた。

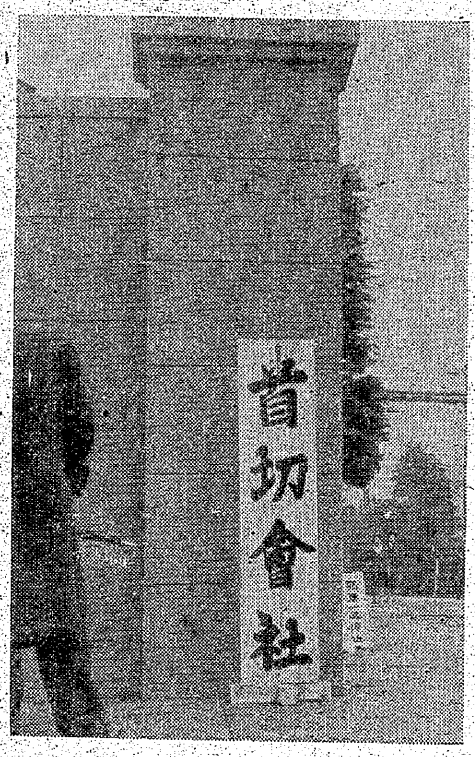
総評と全ソ連労働組合中央評議会は七日、世界各国が全面完全軍縮協定を早期に締結することを要望する声明を、東京とモスクワで同時発表した。

カンパ、激電、激励文もまつたく殺到するようないきおいで、北は北海道から南は沖縄大島にわたる全国各地の組合、民主団体、主婦はては子供たちまでが、たたかいを激励、真心こめたカンパの品をよこしてきた。

団結館が落成

三川鉱の正門には「首切会社」の置表札がデンとすえられ、通行く人の目をぱつたのもこのころである。

各支部とも組合の指令通り、毎日拒否者をつつんで繰込場まで繰込んでいるが、三川支部では拒否者の集会所が、組合事務所では手狭まゝため、事務所裏の広場に殖坪約三百坪の集会所がつくられた。



首切り会社の置表札（一年前の三川鉱）

いわゆる〝団結館〟である。

ホツパー決戦のおりに全国からかけつけてきたオルグたちが、しばし憩いの場として休息に大きな貢献をした建物だ。

宮浦支部では十二日〝団結駅伝〟を華々しく開始、これまでの駅伝のカラを破つて、各組が仮装隊をくり出し、栗木幹や若林所長が飛び出したり、それを追いまわす労働者、農民、商人たちの団結力まで登場して、いよいよ団結をつよめていつた。

港務・本所支部では山の上の首切り状返上で活躍した〝団結力〟が支部事務所前に颯々しく飾りつけられ一人ひとりが、このたたかいを自分のたたかいとして、さらにいづそうの闘魂が燃やしていつたも返上して会社の分裂政策、差別に反対して闘つている組合がある私鉄中国地方労働組合の山陽電軌支部である。

山陽電軌では昨年五月、会社の分裂工作によつて第二組合の結成をさせ、山陽電軌労組に攻撃をかけてきたが、下関市を中心とした中国地方の労働者、市民の共闘に支えられて、分裂政策を闘い抜いてきた。

いま山陽電軌労組は地区の労働者の共闘で「四人の処分」「松野副委員長配転」「彦島営業課担当車替え」の三要求をかかげ、正月返上してたたかいつづけている。

三池と同じ ひどい差別

第一の要求の四人の処分は大要次の内容である。

(1)課長I氏と運転手M氏…分裂直後この二人は勤務外に飲酒して課長IはMに車をもつてくるよう命じた。Mは無免許で会社の車を引張り出し、その車庫と車両輌をこわした。課長はそれを知らず直ちに警察に調査を申入れたが捕えてみればMだつたのでビツクリ、すぐ取り下げた。これが第二組合員の場合だつたら二日酔で事故をしたものには懲戒解雇の通知をしている。課長は日給の半額減額処分（一日だけ）Mは陸号一号（一カ月四〇〇円減）という、第二組合員に比べて話にならぬ位いの処分だ。このことについて会社は悪いことは当然認めるといいながら解決しようとしていない。

(2)操車掛F氏…勤務中宿直室に女子高校生を泊め、また、不当労働行為である組合の切崩しをはかつた。

(3)操車掛O氏…勤務中飲酒、同じく組合の切り崩しをやつた。

つぎに松野副委員長配転だが、松野氏は電車の運転掛（現場の最高職制）だが、朱転という名目で現場から追い出し、第二組合員の乗務員に利益をはかろうとしている最後の担当車替えは、今までの労資慣行を無視して一方的に強行している。

以上が要求の内容である。

逆に攻撃かける会社

組合では以上の問題に対して、組合員に対する差別待遇であり、不当労働行為として許すことはできないと問題を重視しているが、これらの問題は合理化を遂行するための分裂政策として表面にあらわれたものであり、その他職場では無数の差別待遇や、組合員に対するイヤがらせがつづいているという。組合ではまずこの三つの要求で昨年九月から団体交渉を行ないながら問題の解決に努力したが、会社は第二組合の組織維持をはかるため、悪質な攻撃をかけて、問題解決に誠意を示さない状態である。組合では職場集会、抗議集会実力行使と行動をつぎつぎに発展させている。現在にいたるも基本的な解決ができないため、二十四時間ストをふくむ、時限スト、乗務拒否、安全運転など可能な限りの戦術で闘いを強化している。

動揺する第二組合員

また、これと併行に労協の改訂が迫られており、会社と第二組合幹部はその準備態勢をととのえているが、しかし第二の下部組合員は鋭い対決状態にある職場ほど動揺を深めて、すでに復帰の情勢が部分的にも見られているほどである。これは第二の幹部が会社と手を結んで、労働条件の向上を押えているばかりか、切下げに狂奔していることがわかつたからという。いずれにしても、いま山陽電軌労組では、三つの要求と労協改定で地区の労働者とガツチリ手を組んで闘いをすすめている。

あれから一年（6）

首切り会社誕生

安保も調印の山迎える

【トピック】

訂正

前号二面の〝新年の心構え〟（宮浦支部上村唯夫さん）の中つぎの誤りがあつたので訂正いたします

「二十億に近い世界人口……」は「三十億に近い…」に

「組合の分裂とは火付け役で…」は「組合の分裂とは誰が火付け役で…」に

「第二組合を根本的には無視しない」は「根本的には無視したい」に。

ムーンライター急増

さいきんアメリカで「ムーンライター」が急増し問題になつている月の下で働く人だ、つまり賃金の低下をカバーするアルバイトだが昼間の作業にひどく影響している